

人だより

2016
June
第96号

6

特集

JA白山第2次農業振興計画&改正農協法へのJA白山対応方針について



白峰小学校5・6年生の皆さん



② 販売力向上の重点実践事項

【米の直接販売拡大】

直売米と地域限定米の販売拡大と有利販売につとめ、生産者手取り額の最大化を図る。

〈直売米・契約栽培〉	平成28年	平成29年	平成30年
地域限定米	8,500俵	8,500俵	8,500俵
比咩の米	850俵	850俵	850俵
新大正糯	2,300俵	2,300俵	2,400俵
カグラモチ	300俵	300俵	300俵
晩植五百万石	500俵	500俵	500俵
合 計	12,450俵	12,450俵	12,550俵
〈直 売 米〉			
米心石川	10,000俵	12,500俵	12,500俵
コシヒカリ	4,000俵	4,000俵	4,000俵
ゆめみづほ	600俵	650俵	650俵
カグラモチ	100俵	100俵	100俵
合 計	14,700俵	17,250俵	17,250俵
〈直売米・契約栽培合計〉	27,150俵	29,700俵	29,800俵

【園芸の販売拡大】

園芸販売5ヶ年計画による生産量の拡大と有利販売による所得向上を目指す。

- ・直売所を活用した有利販売
- ・主要作物の仲卸、小売り流通業への販売による有利販売と費用削減

販売目標

(単位：万円)

	現状(H27)	H28	H29	H30	H31	H32
ブロッコリー	3,260	4,620	5,100	5,940	6,770	7,260
ネギ	310	1,450	2,070	3,470	5,540	6,000
丸いも	430	630	780	970	1,200	1,510
ニンジン	240	500	600	700	800	800
カボチャ	50	150	300	400	500	500
花 卉	800	830	850	900	950	1,000
菌 茸	660	700	800	900	1,000	1,000
計	5,750	8,880	10,500	13,280	16,760	18,070

※ブロッコリーは個人販売者分を除いている。

③ 地産地消への取組み

【農産物直売所の機能強化】

農産物直売所「よらんかいねえ広場」への園芸品目の安定生産・通年出荷を推進し、希少品目の生産販売拡大を行い地産地消と加工食品の生産拡大を図る。

- ・産直品取扱高の拡大

(千円)

	現状(H27)	H28	H29	H30
取扱高	158,000	190,000	195,000	200,000

- ・個人・集落営農法人、組織等を含めた出荷者の拡大

	現状(H27)	H28	H29	H30
会員数	320	350	365	380

- ・農産物加工品等の魅力ある新たな販売品目を検討し集客力の向上を目指す。
- ・出荷者の技術指導と情報交換を行い生産・販売意欲の向上に取り組む。
- ・生産者と消費者との交流を図る。
- ・生産技術向上のための園芸講習会を開催する。(4回/年)

④ 食農教育の実践と白山農業の食文化の承継

ファーストフードや加工食品の割合が増え食文化が変化する中、新鮮な食材をおいしく食べることが重要です。そのためには実際に育てることによる「食」と「農」の繋がりと地域環境における農業の役割を知ってもらう取組を実践する。又、体験学習や生産者交流事業を通じ、農業との絆を深め、白山農業の食文化の継承を推進する。

- ・学童体験農園や体験農業を通じ農産物への関心を高める。
- ・地場産野菜を活かした料理教室を開催する。
- ・管内生産者と連携し小中学校における地場産野菜の活用拡大を推進する。

⑤ 安心・安全な農産物への取組みを徹底する。

- ・生産履歴記帳・GAP（農業生産工程管理）の取組みを徹底する。
- ・農薬の飛散防止などのポジティブリスト制度への対応を強化する。
- ・残留農薬の自主検査を実施する。

⑥ 中山間地農業の活性化対策

- ・行政と連携した羊放牧による羊肉、羊毛、加工品開発への研究・検討
- ・行政との連携による鳥獣害対策の強化
防護柵（電気柵・恒久柵）の導入を支援し、被害防止を図る。

平成28年度

日本農業新聞全国大会



日本農業新聞会長賞
普及活用維持優績 J A

当 J A 受賞

5月11日、平成28年度日本農業新聞全国大会が東京お台場ホテルグランパシフィックにて開催された。当 J A は、日本農業新聞会長賞を竹内組合長が受賞した。日本農業新聞の普及活動の維持、及び普及率が20%を超えた優績 J A として認められ受賞に至った。

受賞式では、日本農業新聞の宮武利弘代表取締役会長が、「日本農業新聞は昭和3年、貧しさにあえぐ農家や農村の救済を目指し誕生、来年で90周年を迎える。爾来、農家の営農とくらし、いのちを守る報道姿勢を貫いてきた。自然災害の続く今こそ、創業時の志をかみしめ、日本農業新聞が果たすべき役割と責任を自覚し、J A グループの情報発信センターとして力強く邁進し、一日も早い復興と復旧、営農の再開を目指して欲しい。」と挨拶した。



理事会だより

第1回定例理事会 ●日時 平成28年4月28日(水) 午後1時30分

〔審議事項〕

第1号議案 平成28年3月末貸出債権等の自己査定結果について(可決)

第2号議案 施設整備積立金の取崩しについて(可決)
第3号議案 リスク管理積立金の取崩しについて(可決)

第4号議案 平成27年度決算及び平成28年度事業計画の承認について(可決)

第5号議案 第四次中期3カ年計画の最終承認について(可決)

第6号議案 総代会に附議すべき事項について(可決)

第7号議案 同一人に対する信用の供与等(貸付金の額、手形の割引金額、債務の保証額、株式又は出資の額、私募の社債の額、コーポラル・ペーパーの額及び有価証券の貸付額、短期社債等の額、コールローンの額、預け金の額、金銭の信託の額、公募の社債の額、金融債の額、コミットメントライン(融資未実行部分)、その他オフバランス取引等の合計額)の最高限度額の決定について(可決)

第8号議案 同一人自身に対する信用の供与等(貸付金の額、手形の割引金額、債務の保証額、株式又は出資の額、私募の社債の額、コーポラル・ペーパーの額及び有価証券の貸付額、短期社債等の額、コールローンの額、預け金の額、金銭の信託の額、公募の社債の額、金融債の額、コミットメントライン(融資未実行部分)、その他オフバランス取引等の合計額)の最高限度額の決定について(可決)

第9号議案 借入金の最高限度額の決定について

第10号議案 (可決)
貸付金の利率の最高限度の決定について(可決)

第11号議案 平成28年度余剰金運用方針について(可決)

第12号議案 余剰金運用関連取引の大口信用供与等の決定のうち組合長に一任する限度額について(可決)

第13号議案 職制規程別表Ⅱ業務分掌及び職務権限表の一部改正について(可決)

第14号議案 平成28年度コンプライアンス・プログラムの制定について(可決)

〔報告事項〕

① 平成28年3月末事業実績について

② 平成27年度有価証券運用実績について

③ 平成28年度第1四半期余剰金運用方針について

④ 平成27年度内部監査に関する報告について

⑤ 自店検査結果の報告(平成28年1～3月実施分)について

⑥ 大口信用供与先の経営状況について

⑦ 27年産米 J A 出荷米等の概算金追加払いについて

⑧ 平成27年度コンプライアンス・プログラム取組状況報告について

⑨ 平成27年度第4四半期苦情等の受付対応処理状況について

⑩ 平成27年度第4四半期事務ミス等の発生状況について

⑪ 平成27年度第4四半期反社会的勢力等にかかる対応状況について

⑫ 平成27年度組合員数について

⑬ 新たな理事構成要件への対応について

⑭ (有)アグリサポート白山の減資手続について

⑮ J A 白山合併10周年記念イベントについて(案)

⑯ 第9回通常総代会地区別議案説明会の開催について

⑰ その他

乾田直播 田植え開始

西ノ村営農組合

（農）西ノ村営農組合で、今年の田植えが始まった。乾田V溝直播は、今年で6年目。畑状態の田んぼに種子を播き、苗立ちした後、水を入れる直播の方法だ。乾田直播を導入すると、代かきの効果で土壌の物理性・易耕性、排水性や地耐力がよくなり、麦・大豆などの輪作をしやすくなる利点がある。重要なのは、排水性の改良などで、田を乾田化すること。今年高効率で除草剤や、農薬をまく大型農業機械を



購入し、省力化を進めた。中田組合長は、「豪雨で手取川の水が濁ると用水を使えず苦労した。近年、食味が良いので直播きのコシヒカリが欲しい。と声を掛けてくれるところが多くなった。今では、乾田直播は、全体の半分になる。」と語った。



乾田直播 消毒中



稚苗移植も同時進行

大麦採種圃審査を経て 刈取開始

5月19日、平成28年度

J A白山麦採種圃審査が行われ、農業総合研究センター、石川農林、白山市役所、種子協会の審査員によって、大麦品種フアイバースノウの糊熟期審査がされた。J A営農部も同行し、品種固有の特性の保持、異品種、変異株の確認、生育適量、雑草対策、病害虫防除などを検査した。刈取の目安は、水分量25%程度が適正。石川農林の浅沼審査員に優品目安を尋ねると「麦の粒を潰してろうそくのロウぐらいの硬さになった時が適時。水分量で刈取日が、5月26日に決定した。刈取りは、例年よりも少し早い。「麦穂の数がびっしり生えていて、今年が良い出来だ。」と説明された。



大麦審査



大麦刈取

えんどう部会 出荷開始

新入部員会員募集中!

5月17日、えんどう部会（井ノログリンワークス・本田勝栄さん・戸田初枝さん・上田武史さん・河原一三さん）は、当J A営農センターの出荷場で初出荷を迎えた。強風被害も多少出たが、今年の初出荷の金額は、1パック単価330円と高めの初売りとなった。

県内のえんどうの出荷は当J Aだけで、市場の人気も高い。えんどうの目標収量は、10a当たり1000kg。粗収益は10a当たり200万円、他の野菜に比べて坪当たりの売上収益率も高い。農業所得拡大に向けて、えんどう部会は、担い手の指導も意欲的だ。収穫時期は約2か月。田んぼの合間に作れるのも魅力の一つだ。めいてつエムザで試食販売会を行ったり、市場見学に行ったりと、活動も意欲的な部会だ。



白ネギ定植開始

アグリサポート白山

5月20日、アグリサポート白山では、休耕田を借りて白ねぎの定植に挑戦した。白ネギのブランド化に向け、園芸生産拡大に意欲的だ。定植した圃場は、今年初めて畑に転作した。高畝にして通路部分に水が溜まらないように、専用の溝切り機械で排水路を設置した。5か月後の出荷を目指す。

アグリサポート白山の野村さんは、「ねぎ作りは一つ一つの作業を丁寧に行い、手を掛ける事が大切だ」と話してくれた。

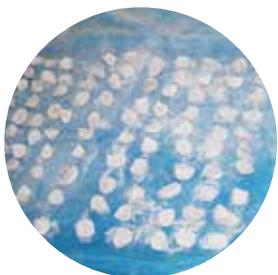
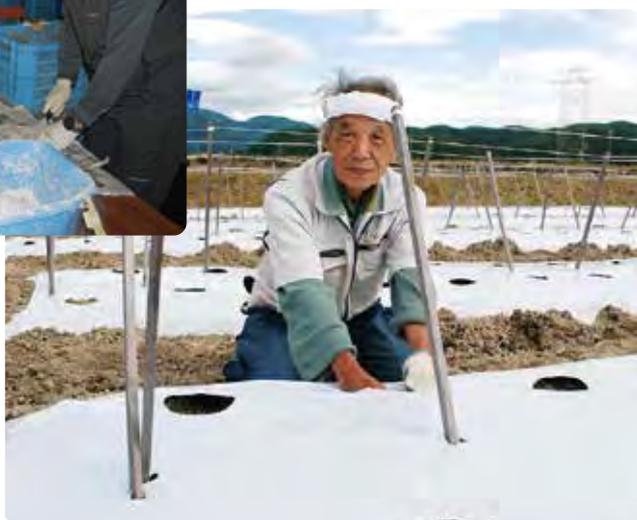


排水路

丸いも定植開始

アグリサポート白山

5月16日、アグリサポート白山は明島町地内の圃場10aで特産品の丸いもの種イモを60g程度にカットし、定植した。当日は、強風で作業時間がかかり、意外に苦労したが、「成長が楽しみだ」と話してくれた。



よんがしお広場

『一周年祭』のお知らせ

6月24日(金)～26日(日)開催予定

皆様のおかげでよらんかいねえ広場は、1周年を迎えます。これまでの感謝の気持ちを込めて、6月24日(金)～26日(日)の間記念イベントを開催致します。

ソフトクリーム試食販売会、地元産野菜サラダそらめんの振舞、JA沖縄フェア開催。イベント盛りだくさんで皆様のご来場をお待ちしています。どうぞお楽しみに！



★JA白山オリジナル商品の発売★



女性部

ボランティアクラブ

ボランティアクラブは4月26日、白山市月橋町の介護施設「デイサービスあすか」を訪問し入居者とふれあいを深めた。ボランティアクラブメンバー代表の太田章子さんと乙田陽子さんは、かぼちゃマフィンを利用者さんと一緒に手作りし介護体操やレクリエーションなども皆で行った。施設の職員さんは「いつもと違う活動は認知予防活動になる。利用者さんの笑い声とセッションの高さに、今後施設内でも取り入れていきたい」と話してくれた。



平成28年度 第1回JA白山女性大学開催

4月26日、第1回当JA白山女性大学がつるぎ支店で開催された。生活文化向上講座「毎日を楽しく快適に健康的な日々を送りましょう」と題して(有)エステルの中出喜美子代表を講師に迎えアロマを入れたオリジナル石鹸作りを体験した。

中出講師は「香りによって効能が違う心身のバランスを整え生活文化の向上に役立て欲しい」と語った。参加者は「こんなに楽しく簡単にアロマの石鹸を作れてびっくりした。今後、自分でも作ってみたい」と話した。



ふれあいサロン活動

5月6日、林公民館多目的ホールで道法寺慶寿クラブ17名の皆さんが、新競技「スライディングペタンク」で健康増進活動を行った。このスポーツは、つるぎ公民館と体育推進委員が、共同発案した積木のカーリングに似た新スポーツで、文部科学大臣賞も受賞。県内でも人気のスポーツになっている。同クラブでの人気も高い。オンラインか否か！白熱した戦い会場内は盛り上がった。村本猛クラブ会長が笛を提

供、筍御飯と巻寿司をお昼に皆で会食した。同クラブ員は「面倒見のよい会長で、皆が自然と集まってくる」と話してくれた。



5月24日、小柳町公民館で、JAふれあいサロンが開催され、小柳町会の32名が参加した。

介護予防の足腰ぴんぴん健康体操の後、昼食には、直売所よらんかいねえ広場の食材で、JA竹内組合長、吉本つるぎ支店長、事務局藤本・古川も参加、手作り昼食を皆で食した。組合長は「J

Aでは福祉事業の取組みとして、高齢者組合員がいつまでも健康に楽しく過ごせる活動を支援している。活動は3年目、JAは今後一層、健康活動を支援したい」と挨拶した。午後から、白山市の消費生活センターの講師を招き、知って得する消費トラブル対処法が人形劇でわかり易く説明された。



田んぼの学校プロジェクト

田植え体験

蝶屋支店管内 美川小学校5年生

5月16日、美川小学校5年生40名が田植えを行った。当JA青壮年部中山久美男さんと営農部や支店員の協力で、昔ながらの田植え体験が行われた。生徒は枠回し、手植えの際、時折足元を取られ泥んこから脱出するのに一苦労。楽しい田植えとなった。生徒は「気持ち悪かったけど楽しかった」と素手、素足の田植え体験を話した。



一支店一協同活動

白峰支店

田植え体験

白峰小学校5年生

5月19日、白峰小学校5・6年生13名が、田植えを行った。当JA白峰支店運営委員の尾田則男さんの田んぼで行った。30年前は、8ヘクタールぐらいあったが、今では、一反、田んぼ3枚になった。統計上、白峰には田んぼがない。「児童達に農業や田んぼに関心を持ってもらいたい」と熱心だ。地域の皆さんと白峰大学（地域文化活動）の皆さんも地域一丸となって協力頂いた。枠まくりをした田に児童達は、裸足で田植えを体験し「昔の人は大変だったな。またやってみよう」と話した。同校、田村博久校長先生は「大学教授と白峰小学校児童達のコラボで、白山の自然災害の研究をする。地域に根づく白峰の児童達の成長が楽しみだ」と語った。



つるぎ支店

田植え体験

つるぎ保育園

5月26日、つるぎ保育園で年長組を中心に、園児54名が田植え体験をした。今年4月から新築移転後、同園の理事長の食農教育をしたいという強い思いで、園内に田んぼと畑を設置した。早崎農園の協力のもと、園児達は、「牛丼、カツ丼、チャーシュー丼」と元気に育つおまじないを唱えながら、どろんこまみれのわんぱくな田植えとなった。泥に入ることに抵抗のある園児は、靴下で田んぼに入ったが「今度は裸足ではいれるよ」と話してくれた。

野菜プランター定植

4月26日、あいわ保育園で園児40名がおくら、ピーマン、トマト、えだまめなど野菜の苗をプランターに定植した。当JAつるぎ支店の吉本支店長や、営農部が支援した。土を触るのを嫌がる園児もいる。「ピーマンは嫌いですか?」と尋ねると、「食べられます」と答えてくれた。今後の成長が楽しみだ。

あいわ保育園





蝶屋支店

親子農園

5月14日、手取町の青壮年部の東さんの農地で、蝶屋地区の小学生以下の児童や園児と保護者の方と一緒にさつまいもと、じゃがいも、落花生、枝豆など4種類の苗を定植した。当JA青壮年部蝶屋支部のメンバーや、青壮年部の山本平さん、西田勉さん、蝶屋支店職員にも協力頂いた。山本さんから、「落花生は、その名の通り、収穫は、落ちてから拾います」との説明に、参加者は皆感心していた。



手取支店

田植え体験

白嶺小学校5年生

5月10日、白嶺小学校5年生の皆さん6名が、市原の大神支店田畑支店長の田で、田植えを行った。生徒が「一列に並んで今日はいよいよお願いします」とあいさつした。手取支店の理事、支店運営委員、支店職員も参加、田畑支店長から「裸足で入りますので、気を付けて下さい」と注意があり、昔ながらの杵まくりをした田に、裸足で田植えを行った。



「腰は痛くなりませんでしたか」と質問すると生徒は「腰を曲げていたので、痛かったです」と田植えの大変さを体験した。今後の稲の生育は、4年生と5年生の13名が観察する予定。

野菜の苗定植

吉野保育所

5月13日、吉野保育所で、年長のさくら組さんを中心に、園児13名がおくら、ピーマン、トマト、さつまいも、えだまめなど野菜の苗を当JA手取支店の澤田支店長や、園芸振興課が支援、祖父母の皆さんの協力を得て定植した。今年もサルやイノシシの対策で、大きなネットを張った。ちいさなジョウロで、ちいさな手で、いっしょうけんめい苗に水を与え、「苗をひっくり返すことが難しいね」と話した。「元気な姿にこちらも元気をもらった」と祖父母の皆さんも満足気だった。園児たちから感謝の歌をプレゼントしてもらった。



大神支店&青壮年部

ジャガイモとトウモロコシの苗の定植

4月28日から高島政親さんの畑で、ジャガイモとトウモロコシの定植をした。大神支店職員と大神青壮年部、支店運営委員や辻進理事も参加、畝

の仕立て及び肥料散布作業、ジャガイモの種イモ及びトウモロコシ野菜苗の定植と黒マルチ掛を行った。黒マルチの裾を土で埋めなかつた為、強風で捲れてしまった。7月かららんかいねえ広場に出荷する予定だ。



青壮年部

野菜苗定植準備

4月24日から5月7日、館畑支店の青壮年部の盟友4名が、七原地内圃場で、ヒマワリ、とうもろこし、ネギの圃場整備、肥料散布、及び畝たてと定植を行った。今回は、定植効率の向上を図る為、チエーンポットとペーパーポットを実験的に導入した。「7月からの野菜の出来と収益が楽しみだ」と話してくれた。



改正農協法が施行されました

農業協同組合法の一部を改正する法律（以下、改正農協法と呼ぶ）は、平成27年の国会において成立し、9月4日に公布されました。また、その後定められた政省令とあわせて、本年4月1日より施行されています。

今回の農協法改正は、重要かつ広範な内容が多く、実務的な影響も大きいものとなっていますが、定められた事項としては、大きく以下の5点があげられます。

① 事業運営原則の明確化

旧法の「営利を目的としてその事業を行ってはならない」とする非営利規定が廃止され、改正農協法では、「農業所得の増大に最大の配慮をしなければならない」「農畜産物の販売その他事業による高い収益性の実現」が明記されました。これは、農協が農産物の有利販売等に積極的に取り組むことを促すために規定されたものです。

② JAの理事構成

改正農協法では、「理事の過半数を（１）認定農業者（２）農畜産物の販売その他の農業協同組合が行う事業又は法人の経営に関し実践的な能力を有する者、とする」旨の規定が新設され

ました。これは、農業所得の増大に資する責任ある経営体制の確立を目的に規定されたものです。また、省令では、地域の実情に応じた例外規定も設けられています。

なお、当JAにおける対応方針については、次ページを参照ください。

③ 監査

平成31年9月末までに、現在実施されている全中による監査から、公認会計士または監査法人（あわせて会計監査人と呼ぶ）による監査に移行することとなりました。

なお、各JAがどの会計監査人を選任するかについては、総（代）会の決議により決定することになります。

④ 准組合員規制

農協法改正のきっかけの1つとなった規制改革会議においては、「准組合員の事業利用を正組合員の2分の1以下に規制する」旨の意見も出されましたが、改正農協法においては結論が先送りされ、法律施行日から5年をかけて実施する調査の結果を踏まえて検討を加え、結論を得るものとされました。

⑤ その他

従来より設けられていた合併や事業譲渡に関する規定に加え、改正法では新たに組織移行や組織変更、分割に関する規定が定められました。



農協法改正に伴う JA白山の対応方針について

1. 理事の選任

法律で農協は「農業所得の増大に資する責任ある経営体制の確立」を求められました。具体的に当JAの場合は例外規定^{※1}に基づき「理事の過半数に①認定農業者 ②認定農業者に準ずる者 ③農畜産物の販売その他の農業協同組合が行う事業又は法人の経営に関する実践的な能力を有する者」を選任することを想定しています。

※1 理事構成要件の原則は前10ページ②のとおりですが、当JAは「正組合員である認定農業者数が、理事定数の10倍以下である」ため例外規定が認められています。

※言葉の説明

「認定農業者」 白山市から地域農業の担い手として認められた農業者
「認定農業者に準ずるもの」 認定農業者OBや生産部会等の代表者等
「実践的な能力を有する者」 会社経営者や農業技術指導員等農協の経営に能力を活かすことができる者

農協法改正は大きく5項目あげられていますが、このうち当JAが現段階で整理すべき事項にJAの理事構成がありますので、その対応方針について以下のとおりご案内いたします。なお、監査や准組合員規制等については今後改正法に適合するよう着実に的確に対処してまいります。

2. 当JAの取組み方針

当JAは平成29年6月の総代会における役員改選に向け、当該要件を満たす理事選出に以下の方針で取り組みます。

(1) 選出方法

当JAは新しい理事構成要件を満たす理事の選出において、役員定数、地区別役員数の変更等行わず現行の枠組みで対応します。

(2) 背景

現理事の構成については、既に改正農協法の要件に適合しております。

また、改正農協法に掲げられている「農業所得の増大に最大限配慮する事業運営原則」についても、当JAはこれまで・県下最大級の農産物直売所よらんかいねえ広場の新設・野菜の産地化を目指した生産者への助成措置拡充・新規就農者育成支援・営農指導強化のための機構改革等さまざまな対策に取り組んでおり、原則に則った事業を展開しております。

JA白山は今後、法の趣旨にそった役員を選出を行うとともに、農業者所得の増大に一層取り組んで参りますので、組合員の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

ニューマネー (新規ご資金) に限り

JA白山 JA共済から貯蓄と保障を兼ねたプランのお知らせ
地震保険、火災保険もセットされます

6月27日までの期間限定!!

建物更新共済 むてき

建物更新共済「むてき」が安心、確実、お得です。どなたでもご加入になります。

一時資金の活用
火災にも 地震にも 台風にも 落雷にも

期間：5年満期

積立額	満期額	元金合計	満期時の受取総額	差益
300万円	300万円	2,895,158円	3,000,000円	104,842円
500万円	500万円	4,825,263円	5,000,000円	174,737円
800万円	800万円	7,720,421円	8,000,000円	279,579円
1,000万円	1,000万円	9,650,526円	10,000,000円	349,474円
2,000万円	2,000万円	19,301,052円	20,000,000円	698,948円

JAの建物更新共済「むてき」のここがメリット!!

- 地震保険が自動付帯されています。
- 一定の要件に該当する場合は、地震保険控除を受けられます。
- 地震によるケガ・火傷の場合にも傷害共済金を対象に支払います。

JA白山 本店 076-272-3317
つるぎ支店 076-272-1515
大津支店 076-273-0670

JA白山合併10周年記念 夏貯金キャンペーン

キャンペーン期間

定期貯金 平成28年6月13日(月)～8月31日(水)

ご契約額200万円以上、預入期間1年もしくは3年のお取引をされた方
ご契約額30万円以上、預入期間1年もしくは3年のお取引をされた方

新規取引 年利 0.3%

(税引後年0.239%)

年利 0.2%

(税引後年0.159%)

増額継続取引 年利 0.1%

(税引後年0.079%)

定期積金 年利 0.3%

(税引後年0.239%)

JAバンク石川は熊本地震で被災された皆様の復興を支援します

期間3年、預入金額50万円以上の定期貯金につきましては、当該定期貯金の0.01%に相当する金額を熊本県復興基金として日本赤十字社石川送付所へ寄付いたします。

JA白山 本店 076-273-3131
つるぎ支店 076-272-1515
大津支店 076-273-0670

SUZUKI TOYOTA 農家多様キャンペーン!

期間 平成28年 4/1(金)～8/31(金)

EVERY 未使用車 CARRY

新車 DYNIA (2.0t～) DYNIA (1.0t～1.5t)

期間中、トヨタ・ダイナトラック新車をご契約の方を対象にガソリン券5万円分 プリカプレゼント!!

ススキキャリイ・エブリイ未使用車を期間中、ご契約の方を対象に下取り車を
どんなお車でも最低 5万円以上!

JA加賀・JA小松市・JA根上・JA能美・JA白山・JA松任
JAのいち・JA金沢中央・JA金沢市・JA石川がほく・JAはくい・JA志賀
JA能登わかば・JAおそろ・JA町野町
JA内浦町・JAすずし

JA全農いしかわ

「売れる」のヒントをお届けします!!

JA 日本農業新聞

お申し込みは JAへ 毎日発行 隔週1か月 2,622円(税込)

http://www.agrnews.co.jp

無料税務相談会 要予約

開催日時 平成28年6月24日(金) 7月25日(月) 午前9時～12時

開催場所 JA白山 本店

当JA顧問税理士 福田 正寛

お問い合わせ・お申込先
ご希望の方は、ご予約をお願い致します。
TEL 272-3333 FAX 273-0690 (担当/総務課)

私たちのJA

(平成28年4月末実績参考) 組合員数 6,584名 (団体含)

- 貯金残高 65,496百万円
- 貸出金残高 18,660百万円
- 長期共済保有高 2,263.8億円
- 購買品供給高 181,576千円
- 販売品取扱高 51,290千円
- 職員数 (パート除く) 142名